

令和5年度 卒業証書授与式 式辞

いつもより雪の少ない穏やかな冬も終わりを告げ、手取川のほとりの草花に春の訪れを感じるこの日、川北町教育長 西田 誠一（にした せいいち）様、川北町教育委員 新谷 浩（しんたに ひろし）様、橘小学校 PTA 会長 中出 弥則（なかで みつのり）様をはじめたくさんの来賓の皆様のご臨席を賜り、令和5年度橘小学校卒業証書授与式を挙げていきますことを心より御礼申し上げます。とりわけ、保護者の皆様には、深い愛情をもって育ててこられたお子様の、立派に成長した姿を前にして、さぞかしお喜びのことと拝察致します。お子様の晴れのご卒業を心よりお祝い申し上げますとともに、本校の教育に対する6年間のご支援とご協力に深く御礼申し上げます。

さて、橘小学校150年目の卒業生24名の皆さん、今皆さんが手にした卒業証書は、小学校の全ての教育課程を修了した証です。6年間の皆さんの努力とともに、これまで温かく見守ってくださったご家族や地域の方々の深い愛情が込められています。皆さんの成長を願い、一人一人に寄り添いながら一緒に歩んできた先生方も、今の皆さんの立派な姿に誇らしさと喜びを感じていることでしょう。

皆さんは、特にこの一年間、橘小学校の代表、最上級生として、よく活躍してくれました。明るい学校を作りたい、下級生にお手本となる姿を示したいといつも前向きに学習や行事などに取り組んできました。

運動会では、応援団で一生懸命盛り上げてくれました。はげまし活動では下級生に優しく教えてあげる姿もありました。マスクをするようになり、小さくなった声を挨拶運動で元気な声にしてくれました。集団登校の班長、掃除のリーダー、委員会活動・・・見えるところ見えないところ様々な場面で活躍してくれました。

そんな卒業生の皆さんにこれから大切にしたい2つのことをお話します。

一つ目は「今できることを精一杯やる」ことです。今年のお正月には大変な出来事が起きました。令和6年能登半島地震です。多くの方が亡くなったり、住むところを失ったりしました。この状況は皆さんが4年生のときに学習した昭和9年の大水害に重なるように思います。生活の基盤が突然なくなり、途方に暮れるようなとき、川北の先人達は忍苦更進の思いを持ち、苦勞をしながらも当時よりさらにこの町を発展させてきました。本校の校歌3番の歌詞に「橘の豊けさは、父祖のたゆみなく耕しきたれるたまものぞ」とあります。すぐに諦めてしまうのではなく、今できることを精一杯やる、やり続けた結果今の橘の豊かさはあるのだということです。

私の好きな言葉に「玉 磨かざれば光なし」というものがあります。玉とは宝石のもとになる石（原石）のことです。磨いてこそ光を放つきれいな宝石になるという意味です。いろいろな可能性を持つ皆さんには、これから出遭う様々な場面で今自分にできる精一杯の努力をして自分を磨いて欲しいと思います。

二つ目は「感謝の気持ちを言葉にすること」です。

ありがとうが返ってくると、人はその次も応援したくなるものです。ところが、その人のためにと思って何かしてあげたときにありがとうが返ってこなかったら・・・、次も何かしてあげようとはなかなか思えませんよね。そして、ありがとうを声にすることで「次は自分が・・・」となり、その人の周りには温かい助け合いの連鎖ができてきます。この小さなありがとうの積み重ねが、橘という地域コミュニティの力になっていくと思います。困ったときはどうか周りの人に助けを求めてください。そしてありがとうの言葉を返してください。そうして助け合いながら、大きく育って欲しいと願っています。

中学校では、10年間寄り添った仲間達とはまた違う出会いが待っています。意気投合することもあれば、衝突することもあるでしょう。そんなときも、相手を思いやる気持ち、感謝する心を忘れずに過ごしてください。

さて、保護者の皆様、本日は小学校6年修了の節目ではありますが、人間はそう簡単に手が離れるものではありません。これから先、中学、高校と彼らの世界が広がるにつれて様々な困難が待ち受けていることでしょう。まだ経験したことのない困難にぶつかり、助けを必要としていると感じた時は、どうぞそっと手を取る、背中を押すなど独り立ちを支えてあげてください。本日は誠におめでとうございます。

さあ、卒業生の皆さん、六年間蓄えた力、磨いてきた心と体と知恵で、新しい世界へと一歩を踏み出す時がきました。橘小学校に150年間受け継がれてきた「たちばなっ子」であることに自信と誇りを持って力強く中学校生活を歩んでいくことを期待し、式辞と致します。

令和6年3月18日

川北町立橘小学校

校長 田中修介